

摂南大学 看護学研究科看護学専攻 博士前期課程
2026年度 入学試験問題<第1回>2026年2月14日

専門科目 (領域・分野名)	基盤・療養支援看護学領域 療養支援看護学分野	受験番号	
---------------	---------------------------	------	--

I 次の事例を読んで、問いに答えなさい。

Aさん (67歳・男性)

職業：無職 (元会社員)、家族構成：妻と二人暮らし

嗜好品：40年間喫煙 (1日20本)、既往歴：脂質異常症

2週間前より無症候性肉眼的血尿を認め、近医を受診。尿細胞診、画像検査で膀胱腫瘍を疑われ、精密検査を実施した。

検査の結果、筋層非浸潤性膀胱がんと診断され、腰椎麻酔下でTUR-Bt (経尿道的膀胱腫瘍切除術) の予定で入院となった。

入院後のAさんの受け止め：「入院も手術も初めてです。尿道から管を入れて手術するときいていますが、なんだか痛そうですし、手術後にも尿に血が混じるみたいですね。どうすれば良いのでしょうか。」「手術しても再発すれば、そのたびに手術することになるようなことを先生からききました。せっかく仕事も退職して、これから妻と旅行とか、いろいろと楽しみたいと思っていたのに、残念です。」

問1 現在のAさんの状態をアセスメントし、生じている看護問題及び術後に予測される看護問題を述べよ。

問2 上記で述べた看護問題に対する具体的な看護について、述べよ。

摂南大学 看護学研究科看護学専攻 博士前期課程
2026年度 入学試験問題<第1回>2026年2月14日

専門科目 (領域・分野名)	基盤・療養支援看護学領域 療養支援看護学分野	受験番号	
---------------	---------------------------	------	--

Ⅱ 救急医療の場においては、意識障害や鎮静などによって、本人の意思が確認できない状況がある。延命治療の撤退や差し控えなどの治療に関する重要な決定についても、血縁の家族の代理意思決定者に判断を委ねなければならない状況が課題となっている。

患者本人の意思を尊重した代理意思決定を実施するために、必要な多職種連携と看護師の役割について、論じなさい。